

# コア理論による現代日本語における多義語の解析について

—形容詞「甘い」を例として—

毛 勇・曹 捷平\*  
(香川短期大学・\*西安外国語大学)

はじめに

日本語教育における多義語の研究と教授は難関の一つであると指摘されている。その要因は、多義語固有の特徴のほか、教授法や辞書の記述にも欠点、制限があると考えられる。文字通り、多義語は複数の語義を持つ言葉であり、しかも語義の使用領域も多岐にわたっている。筆者らの観察では、多義語の伝統的な教授法及び辞書の記述において、その語義領域の関連性を考慮せず、そのまま教授しあるいは羅列する傾向が見られる。

多義語研究及び教授の現場において、上記の欠点を克服し、学習者が多義語をより効率よく習得するために、その語義構造を解明し、記述法を見直し、そして教授法を改善する必要があると考える。松田・白石(2006)は「目標言語での円滑なコミュニケーションのためには、言葉の意味付けを母語話者と共有することが必要である。このためには個々の意味付けの背後にある当該語に対するコア(概念イメージ)がどのようなものであるかを知ることが必要となる」と指摘した<sup>1)</sup>。上記の指摘は、田中のコア理論に沿ったものである<sup>2)</sup>。そのコア理論を援用すると、中国語母語話者に日本語の多義語を教授する時に、日本語母語話者と多義語の意味付けを共有する必要がある、しかも多義語の背後にある当該語のコアを把握する必要もある。換言すれば、多義語の背後にあるコア語義に対する的確な把握は、そ

の語義構造の解明と語義記述及び教授法の改善に繋がると思われる。

本稿は、上記の問題意識に基づき、コア理論を用いて形容詞における多義語(以下「多義形容詞」と称する)の解析を試みるものであり、中国語母語話者に多義形容詞を教授する時、その背後にあるコア語義をどのように認識させ、把握できるようにするかを提示するものである。考察を単純明瞭に展開していくために、常用多義形容詞「甘い」(以下「甘い」と称する)に焦点を合わせることにした。構成は、以下の通りである。まず、多義語に関する先行研究を概観し、そして、その研究の主要理論モデルを説明しておき、また、それらの理論を踏まえ、その中からコア理論を用いて「甘い」の語義構成を重点的に考察し、その背後にあるコア語義を抽出する。なお、中国語母語学習者の立場に立って効果的に考察するために、「甘い」の中国語対訳多義形容詞「甜」及び「甜」が含まれた複合語(以下「甜」と称する)と比較しながら、論述することにした。

## I. 先行研究の概観

近年、さまざまな視点から「甘い」を対象にした研究が多数見られている。そのうち、青谷(2001)はアンケートを利用して、「甘い」の各語義の使用頻度を調査し、その使用頻度に基づき、「甘い」の語義ネットワーク及び拡張プロセスを考察した<sup>3)</sup>。武藤(2001)は、認知言語学の比喩視点により、「甘い」の多義的語義を分析し、その拡張メカニズムの存在を指摘した<sup>4)</sup>。小出(2003)は「甘い」の語義を「人の内部事象」と「外界の事象」に分け、また「人の内部事象」を「味覚表現」、「他感覚表現」と

平成24年12月26日受理  
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地  
香川短期大学 経営情報学科 702研究室  
TEL 0877(49)8046 FAX 0877(49)5252  
Email mao@kjc.ac.jp

「心的事象の表現」に、「外界の事象」を「他者に対する姿勢、評価」、「外部状態」に分けて分析した<sup>5)</sup>。崔・馬場 (2010) は、小出 (2003) の分類に従い、「甘い」と「甜」の多義的語義を分析した<sup>6)</sup>。王 (2011) は、対義語化の手法を用いて、「甘い」と「甜」の隠喩的な語義拡張を考察した<sup>7)</sup>。

上記の先行研究は、ほとんど「甘い」の複数語義の認定と意味拡張プロセスの分析を中心に展開したものであるが、日本語学習者の立場に立ってより効率的に習得できるような教授法については、言及していないのが現状である。

## II. 主要理論モデル

### II-1 初山の分析モデル

初山 (2002) は、多義語の分析モデルとして、以下の手順を挙げている<sup>8)</sup>。

- (1) 複数語義の認定
- (2) プロトタイプの語義の認定
- (3) 複数語義の相互関係の明示

言うまでもなく、多義語は複数の語義を持つ言葉である。その複数語義を共時的に認定するのは、当然多義語分析の前提となる。そして、上記 (2) は、複数の語義をカテゴリーごとに分類し、そのカテゴリーを構成する個々の語義のうち、最も基本的、想起しやすくおよび慣習化の程度が高い語義は、多義語のプロトタイプの語義だと考えられる。また、上記 (3) は、多義語の複数の語義群の間に存在する関連性を明らかにすることを意味している。多義語の複数語義はプロトタイプの語義から比喻によって周辺の語義に拡張する方向性を持っていると見做される。従って、比喻の低位類としてのメタファー・シネクドキー・メトニミーが多義語の語義拡張のメカニズムと見做される。メタファー・シネクドキー・メトニミーの定義がそれぞれ次のようになる。

メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喻。

シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す。あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を

用いて、より一般的な意味を表すという比喻。

メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、或いは、二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喻。

上記の初山分析モデルは、多義語の内部構造を客観的かつ全面的に反映し得る利点があるので、多義語研究の分野において、基本動詞を中心とする研究成果が多数発表された。但し、初山分析モデルの不足点として、他の類語との意味境界の説明がつかないなどが挙げられている。

### II-2 田中の「コア」理論

田中 (2004) は、「コア」が文脈依存から脱文脈化に至る学習における一般化の過程に注目した学習の産物であると規定した。換言すれば、「コア」のコンセプトは、ほかでもなく、文脈に依存しないことである。「context-free」あるいは「context-independent」の意味を指す。

「コア」は (1) 用例の最大公約数的な語義であり、かつ (2) 多義語の語義全体を捉える概念である (たとえ、おぼろげな輪郭であったとしても)。「コア」のコンセプトを分かりやすく提示すると、下図1のように円錐の頂点として捉えることができる。すなわち、円錐形の円 (底面) の大きさは語義の範囲を

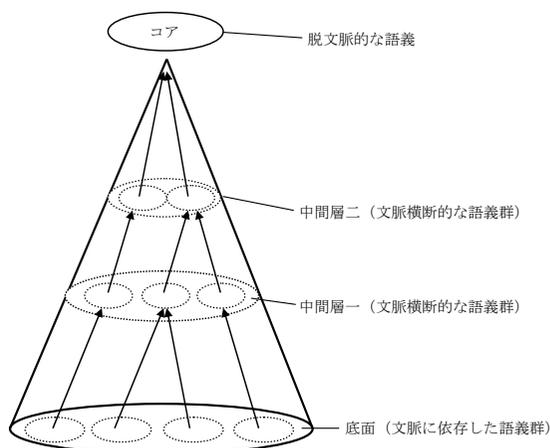


図1 「コア」理論

示しており、円が大きくなればそれだけ、コアの頂点も高くなり、コアそのものの抽象度も増す。底面には、文脈に依存した（context-sensitive）語義群が表され、中間層には、文脈横断的な語義群が示され、そして頂点においては、脱文脈的なコア語義が示されている。

上記の「コア」理論に基づいた先行研究は、田中をはじめ、数多くの言語学研究者が専ら日本語や英語の基本動詞、助詞及び前置詞に集中して考察を行ったものである。

### Ⅲ. 「コア」理論による「甘い」と「甜」の考察

現状として、「コア」理論を用いた多義形容詞に関する考察研究は、まだ報告されていない。以下では、コア理論を用いて「甘い」と「甜」の語義構成を重点的に考察し、その背後にあるコア語義を抽出する。

#### Ⅲ-1 「甘い」と「甜」の底面語義群

上述した通り、多義語を解析するには、まず多義語の複数語義を認定しなければならない。そして、コア語義を抽出するためにも、語義円錐形の底面語義群を共時的に確認する必要がある。

ゆえに、インターネットおよびコーパスより検索されたデータから、「甘い」と「甜」の用例を抽出し、分類したものを下記のように提示するとともに底面語義群の語義を確認しておく<sup>9)</sup>。

#### A. 「甘い」と「甜」の基本義

「甘い」と「甜」は、もともと味覚語であり、〈砂糖や蜜などのようなものが持つ〉〈糖分のある〉〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈おいしい〉〈味覚的刺激〉を表す。

#### （語義1 味覚①）

- J1. 美味しくするために甘い砂糖を入れているのだ。
- C1. 砂糖是食糖的一种。其颗粒为结晶状，均匀，颜色洁白，甜味纯正，甜度稍低于红糖。

上記用例J1、C1は、「甘い」と「甜」の基本義（プ

ロトタイプの語義）である。

#### B. 「甘い」と「甜」の展開義

味覚は人が外界を認知する基盤の一つである。人は味覚以外の事物を認知する時にも、すでに体験した味覚を思い出し、味覚語で表現することとなる。「甘い」、「甜」は、まさにこのような性格を持っている形容詞である。故に、「甘い」と「甜」は次第に語義豊かな多義語に変貌してきたのである。

#### 展開1（基本義展開）

#### （語義2 味覚②）

- J2. この甘い水というのは砂糖水のことじゃなくて、汚れていないきれいな水のことだよ。
- C2. 当村民们喝上甘甜的山泉水时，无不称赞是一件荫及子孙的大好事。

語義2も、味覚を表すが、基本義とは異なり、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈おいしく〉〈刺激の少ない〉〈味〉を表す。これは、基本義の〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈おいしい〉という特徴からメトニミーで展開してきた語義である。例文J2、C2中の「水」「泉水」のほか、中国ではお茶などの味を表現する時にも使われる。

#### 展開2（基本義展開）

#### （語義3 味覚③）

- J3. 煮物の塩加減が甘い。
- J4. ウイスキーは彼が家で寝酒に飲んでいる日本産のものより味が少し甘く、香ばしかった。

語義3も、味覚を表すが、基本義と語義2とは異なり、〈塩分や辛さなどの刺激が〉〈本来求めている基準より〉〈不十分で足りない〉〈味〉を表す。この意味は語義2を基にもっと拡張して、ポジティブな語義〈刺激の少ない〉からネガティブな語義〈不十分で足りない〉に変化し、主に料理の塩加減や酒類などの辛さが不十分で足りないことを指す。従って、語義3は語義2との隣接性に基づいたメトニミーによる語義拡張である。また、この語義は「甘

い」に限って、「甜」にはない用法である。

### 展開3 (拡張義)

#### (語義4 嗅覚)

- J5. お店に一步入ると、ふあんとケーキの甘い匂いがします。
- J6. バラの甘い香りが会場いっばいに漂っていた。
- J7. そして彼女のなつかしい、いつも彼女が漂わせていたあの甘い香りとやさしい雰囲気胸いっばいに吸い込みました。
- C3. 蒙自の石榴熟了，空气中弥漫着一丝丝的甜意。
- C4. 有一种闻起来很甜的古龙水是什么类型的？
- C5. 女人觉得麝香让自己很诱惑，可男人却最喜欢女人身上让他们忘情的甜甜奶香，没有男人能拒绝这样的怀抱。

語義4は「甘い」と「甜」が味覚領域から嗅覚領域に拡張展開された語義であり、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈匂い・香り〉を表す。J7、C5で示したように、食べ物のほか、女性の体の匂いなどにも使われる。基本義から、類似性に基づいたメタファーによる一種の語義拡張である。

### 展開4 (拡張義)

#### (語義5 聴覚①音声)

- J8. 彼女は、会うたび何かインスピレーションのようなものをあたえてくれ、その甘い声は、生きる力の源泉をくすぐられるような思いに土岐を誘うのだ。
- J9. 気をつけよう。暗い夜道と甘い声。
- C6. 售票员将车票和找回的钱从窗口送出，用甜甜的声音重复了一遍：“两张今天305次学生硬座票，请您点一下钱。”

語義5は「甘い」と「甜」が味覚領域から聴覚領域に拡張展開された語義であり、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉音声を表す。ただし、上記J9のような音声は危険度の高い罠だと警

告する意味で、後掲ネガティブ評価の用法にも通じる。これも基本義からメタファーによる語義拡張である。

### 展開5 (拡張義)

#### (語義6 聴覚②話・言葉)

- J11. 併し，そんなみどりの不安も，いつも高男の甘い言葉一つで跡形もなく消えていった。
- J12. 甘い言葉には注意が必要なのです！！
- C7. 人心隔肚皮，谁晓得她肚里藏着些什么？你大概是被她的几句甜话灌醉了，吃了亏你才会醒！

話や言葉は音声と緊密に繋がっている。上記語義5のような声で発した話や言葉も、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉。従って、語義6は語義5から隣接したメトニミーによる語義拡張である。

### 展開6 (拡張義)

#### (語義7 聴覚③言い方)

- J12. 耳元で甘く囁くような一言。
- C8. 当儿子醒着的时候，她有时会与他亲切地目光交流，温柔地拥抱抚摸，甜甜地喃喃低语。

言い方も音声、話や言葉と密接に関連している。言い方が語義5、語義6と同様に、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉。従って、語義7も語義5、語義6から隣接したメトニミーによって拡張された用法である。

### 展開7 (拡張義)

#### (語義8 視覚)

- J13. エレック王子の甘い笑顔と薔薇の甘い香りで、ジェナの体は麻痺しそうだった。
- C9. 随着风箱的推拉，火舌忽长忽短地喷出灶外，他不时抬头看一看我，带着甜甜的笑意。

語義8は、「甘い」、「甜」が視覚領域に拡張展開

された語義であり、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈表情〉を表す。基本義から、類似性に基づいたメタファーによる語義拡張である。相似した表現には、例文のほか、「甘い表情」、「甜美的笑脸」、「甜妞」、「甜甜的酒窝」などもある。

#### 展開8（拡張義）

##### （語義9 触覚）

J14. 繋いだ指先から甘い触覚が伝わってくる。

人はあるものに直接触れて、味覚と同じように、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉。従って、語義9は、基本義から類似性によるメタファーで生まれた用法である。但し、この用法は使用頻度が非常に低い。上記J14のような例文が稀ではあるが、味覚語「甘い」は触覚領域にも拡張展開し得ることを実証した。なお、語義9の用法は、「甘い」にのみあり、「甜」には、同様な用法が見当たらないことを付け加えたい。

#### 展開9（派生義）

##### （語義10 心理体験）

J15. 信夫は、何とも言えない甘い喜びが湧きあがってくるのを感じた。

C10. 曾经甜蜜绮丽的憧憬不知何时起变得苦不堪言。

語義10は、心理領域に派生した用法であり、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉を表す。これは基本義から類似性によるメタファーで派生した用法である。同様な表現には「甘い遊楽」、「甘い期待」、「甜美的回忆」、「甜美的幻想」などもある。

#### 展開10（派生義）

##### （語義11 評価① 外界事象）

J16. 芸術家の気質で、厄介なところがあるが、作品はとてもナイーブで鋭くて、甘い雰囲気があるね。

C11. 同时，设计师在卧室、浴室、客厅等空间注

重细节的塑造，尽量营造一种温馨、浪漫、甜蜜的氛围。

語義11は、外界事象を修飾、評価する用法である。ある外界事象は、基本義のような味覚体験と語義10のような心理体験と同様に、人に〈心地よい〉〈好ましく快い〉感覚を与える。従って、これも基本義や語義10から類似性に基づいたメタファーによる用法である。同じような表現は「甘い世界」、「甜美的生活」などもある。

#### 展開11（派生義）

##### （語義12 評価② 男女関係）

J17. 一緒になった二人の結婚生活は、はじめのうちこそ甘く濃やかなものであった。

C12. 我们都笑他们老夫老妻还像新婚夫妇那样甜蜜 甜蜜每天必通电话。

これは、男女間の愛情を修飾、評価する用法である。愛情は〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉ものである。従って、語義12は基本義から類似性によるメタファーで派生した意味であり、同時に、語義10から隣接性によるメトニミーで派生した意味でもある。

#### 展開12（派生義）

##### （語義13 評価③ 時間）

J18. カノジョと過ごした、夢みるような甘い瞬間、もっともっと好きになっていく……。

C13. 相机里留下了甜蜜的瞬间。

語義13は〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈時間〉を修飾、評価する用法である。これは、基本義からメタファーで、語義10からメトニミーで派生した用法でもある。また、似たような表現は「甘い一日」、「甜蜜的时光」などもある。

#### 展開13（派生義）

##### （語義14 評価④ 睡眠）

J19. 眠りをちょうだい、甘い甘い蕩ける様な眠りを……。

C14. 他们说：“住进小土屋心安理得，精神舒畅，睡得稳，也睡得甜。”

語義14は、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈睡眠〉を修飾、評価することができる。他人のぐっすり寝ている様子を見て、〈心地よい〉〈好ましく快く〉感じたり、自分の熟睡した後の〈心地よい〉〈好ましく快さ〉を表したりすることができる。この用法は三つのチャンネルから派生されたものである。つまり、①基本義からメタファーにより、②語義8からメトニミーにより、③語義10からメトニミーにより派生された用法である。

#### 展開14（派生義）

（語義15評価⑤清楚感）

C15. 甜鞋淨林。

C16. 她低头看着自己雪白的肚子，白皑皑的一片，时而鼓起来些，时而瘪进去，肚脐的式样也改变，有时候是甜淨无表情的希腊石像的眼睛，有时候是突出的怒目，……。

語義15は「甜」にしかない語義であり、よく形容詞「淨」とセットして、〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈清楚感〉を修飾、評価する。これは、人が純粹で清楚な姿を見て、〈心地よい〉〈好ましく快さ〉を感じることから、語義8からメトニミーで派生した語義である。

#### 展開15（派生義）

（語義16ネガティブ評価①）

J20. 彼は若い女性に甘い。

J21. 彼の判断が甘かったんだ。

J22. あの先生は採点が甘い。

語義16は〈人の判断に厳しさが足りない〉という評価を表し、塩加減や辛さなどの刺激が足りない、ある基準を満たさないという味覚と共通点があるので、語義3からメタファーによって派生された語義

である。これは「甘い」にだけ持っている語義であり、「甜」に見当たらないものである。同じような表現には、「子に甘い」、「甘い自己評価」、「甘く見る」、「世の中が甘くない」などもある。

#### 展開16（派生義）

（語義17ネガティブ評価②）

J23. 甘い相場。

J24. 刀のかねが甘い。

J25. 三番目のねじが甘くなっていた。

上記例文J23は、相場がやや下がり気味な状態をネガティブ評価している。例文J24は、刀のかねの調子があまり良くなく、使う人の要求に達していないことをネガティブ評価している。例文J25も、ネジの働きが良くない状態に対するネガティブ評価である。従って、「甘い」には〈外部状態がある基準に達していない、使う人の要求に応えられない〉という語義も持っている。これは、「甘い」の語義3から〈味覚的な刺激が足りない〉という用法からメタファーによって派生された用法である。また、語義16とも関連があって、語義16からメトニミーで派生した用法でもある。語義16と同様、「甜」には、このような用法はない。

#### Ⅲ-2 「甘い」と「甜」の語義拡張プロセス

上記提示した例文における基本義、基本展開義、拡張義および派生義を改めてまとめてみると、次の表1になる。

表1より、われわれは「甘い」と「甜」の語義群の内部構造が、語義カテゴリーにおいて、各々の語義がばらばらで、乱雑に存在しているものではなく、有機的にあるメカニズムにより関連付けられていることが読み取れる。ここで、上述した朮山分析モデルが提示した「多義語の複数の語義はプロトタイプの語義から比喻によって周辺の語義に拡張する方向性を持っている」という拡張プロセスは、多義形容詞の場合でも確認できた。このプロセスに従って、「甘い」と「甜」の語義拡張ネットワークをまとめてみると、それぞれ図2と図3のように提示す

表1 「甘い」と「甜」の語義<sup>10)</sup>

語義	甘い	甜	心地
1, 〈砂糖や蜜などのようなものが持つ〉〈糖分のある〉〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈おいしい〉〈味覚的刺激〉味覚①	○	○	+
2, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈おいしい〉味覚②	○	○	+
3, 〈塩分や辛さなどの刺激が〉〈本来求めている基準より〉〈不十分で足りない〉味覚③	○	×	-
4, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈匂い・香り〉嗅覚	○	○	+
5, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈音声〉聴覚①	○	○	+△
6, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈話・言葉〉聴覚②	○	○	+△
7, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈言い方〉聴覚③	○	○	+
8, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈表情〉視覚	○	○	+
9, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈感触〉触覚	○	×	+
10, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉心理体験	○	○	+△
11, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈外界事象〉評価①	○	○	+△
12, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈男女関係〉評価②	○	○	+
13, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈時間〉評価③	○	○	+
14, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈睡眠〉評価④	○	○	+
15, 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈清楚感〉評価⑤	×	○	+
16, 〈本来求めている基準より〉〈不十分で足りない〉〈人の判断〉ネガティブ評価①	○	×	-
17, 〈本来求めている基準より〉〈不十分で足りない〉〈外部状態〉ネガティブ評価②	○	×	-

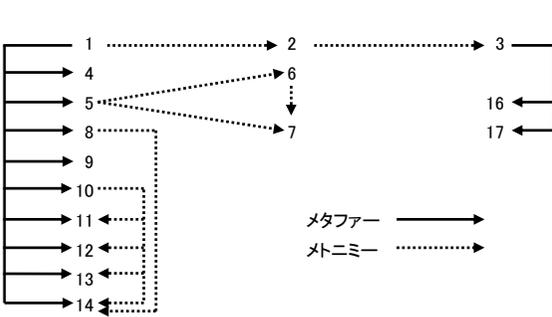


図2 「甘い」の語義ネットワーク

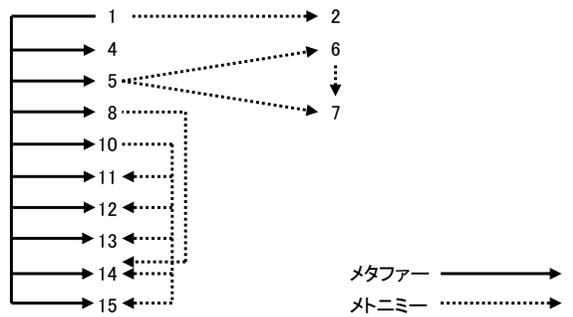


図3 「甜」の語義ネットワーク

ることができる。

また、上記「甘い」と「甜」の底面語義群、拡張語義群及び派生語義群に対して考察した結果を語義カテゴリーの次元で分析すると、以下の結論が得られた。

(i) 「甘い」は、16の語義を持つのにに対し、対訳語「甜」は、13の語義を持っている。両者の語義カテゴリーには、語義1、2、4、5、6、7、8、10、11、12、13、14が共通しているが、語義

3、9、16、17が「甘い」にしかない語義であり、語義15が「甜」にしかない語義である。

(ii) 味覚を表すカテゴリーにおいて、両者がともに語義1（基本義）と語義2を持つが、「甘い」は「甜」より一つ語義が多く、語義3を持っている。そして、語義3をもとに、ネガティブ評価の語義16、17が派生された。これは、「甘い」と「甜」の最大たる相違点であろう。

(iii) 味覚以外の五感領域においては、「甘い」は嗅

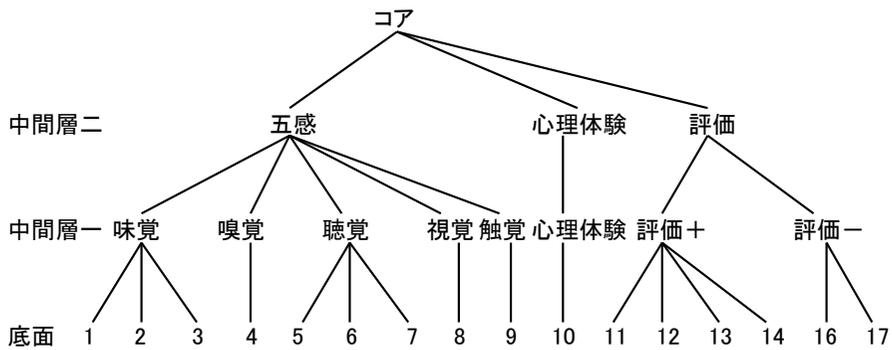


図4 「甘い」の中間層語義群

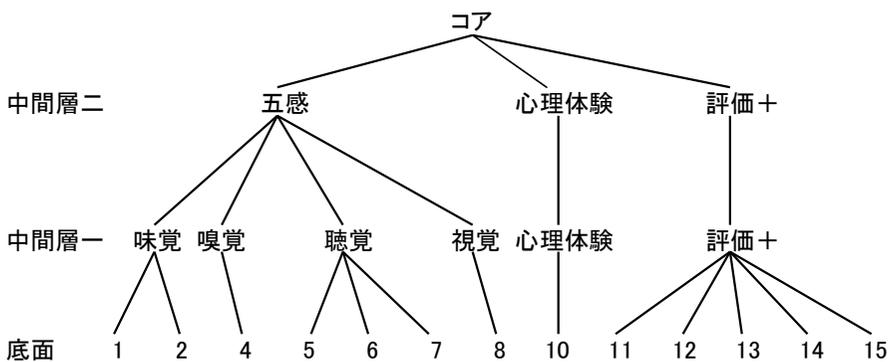


図5 「甘い」の中間層語義群

覚、聴覚、視覚ないし触覚に拡張展開したのに対し、「甜」は嗅覚、聴覚、視覚に止まっており、触覚の用法までには展開されていない。

(iv) 「甜」は清楚感を修飾，評価することができるのに対し、「甘い」には同様な用法が見当たらない。

### Ⅲ-3 「甘い」と「甜」の中間層語義とコア語義

「コア」理論によれば，多義語の底面語義群から抽象化して中間層語義群になり，また中間層語義群から更に抽象化してコア語義を形成させることができる。従って，上記考察した底面語義群をもとに，

「甘い」と「甜」の中間層語義群を図4、図5のように，まとめることができる。

上記図4と図5の比較を通して，われわれは以下の特徴が読み取れる。

- (i) 「甘い」の中間層1が「甜」の中間層1より大きく，且つ「外界に対するネガティブ評価(-)」という語義を有している。
- (ii) 中間層2においては，「甘い」と「甜」がともに「五感」、「心理体験」、「外界に対する評価」という三つの語義を持ち，「五感→心理→外界」という方向へ展開していくことが一致している。
- (iii) 上記(ii)の展開方向性から，人が外界を認

表2 「甘い」の語義の流れ

底面語義	1, 2, 3	4, 5, 6, 7, 8, 9	10	11, 12, 13, 14	16, 17
中間層語義一	味覚 〈心地よい〉〈好ましく快く〉 〈刺激が足りない〉〈味覚的刺激〉	他の五感 〈心地よい〉〈好ましく快く〉〈恍惚感が誘発される〉〈味覚以外の五感覚〉	心理体験 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉	評価+ 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈外界の事象〉	評価- 〈要求, 判断, 状態が求めている基準より〉〈不十分で足りない〉〈様子〉
中間層語義二	五感 〈心地よい〉〈好ましく快く〉〈刺激が足りない〉〈五感〉		心理体験 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉	評価 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈または, ある基準より不十分で足りない〉〈評価〉	
コア語義	五感, 心理, 外界評価による心地の表現				

表3 「甜」の語義の流れ

底面語義	1, 2	4, 5, 6, 7, 8	10	11, 12, 13, 14, 15
中間層語義一	味覚 〈心地よい〉〈好ましく快く〉 〈刺激が足りない〉〈味覚的刺激〉	他の五感 〈心地よい〉〈好ましく快く〉〈恍惚感が誘発される〉〈味覚以外の五感覚〉	心理体験 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉	評価+ 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈恍惚感が誘発される〉〈外界の事象〉
中間層語義二	五感 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈五感〉		心理体験 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈心理体験〉	評価+ 〈心地よい〉〈好ましく快い〉〈評価〉
コア語義	五感, 心理, 外界評価による心地よさの表現			

知るプロセスは、五感から心理へ、そして、具象から抽象へと展開していくことが明らかになった。

図4と図5の概念より、基本義から底面語義群、中間層1語義群、中間層2語義群およびコア語義の流れをまとめてみると、表2と表3のようである。

更に、コア語義を抽出してみると、

「甘い」：五感・心理・外界評価による心地の表現である。

「甜」：五感・心理・外界評価による心地よさの表現である。

コア語義は多義語の個々の語義の間を貫き、脱文脈の語義であり、母語話者の認知基盤に内在しているものでもある。つまり、日本語母語話者は、「甘い」を五感・心理・外界評価による心地の表現とし

て使用している。「甜」も、五感・心理・外界評価による心地の表現ではあるが、但し「甜」には、外界に対するネガティブ評価の用法がないため、ネガティブな心地の表現が存在しないこととなり、故に、心地よさの表現となっている。

おわりに

本稿各節を通して考察してきたように、コア理論は、多義形容詞の解析にも有効である。われわれは、「甘い」と「甜」を実例とし、その底面語義と中間層語義を明示した後、コア語義の抽出に辿り着いた。本稿冒頭ですでに言及したが、多義形容詞を教授する現場においては、学習者にいち早くその語義構造およびコア語義を解説し、的確にコア語義を

認識させ、把握できるようにすることが、より効果的な教授法であると考え。また、辞書でもその方向性に沿って記述法を見直せば、多義形容詞の的確な把握に資すると考える。なお、上記論点が正しいか否かは、今後、教育実践の中でその検証結果を待たなければならない。

#### 注

- 1) 松田文子・白石知代 (2006) 「コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研究」。
- 2) 田中茂範は、旧来のコア理論を批判しながら、田中 (1989) を経て、田中 (1990) で新しいコア理論を提出した。以後、田中 (1997, 2004) のような、英語基本動詞や前置詞及び日本語の基本動詞についての論文を出された。
- 3) 青谷法子 (2001) 「多義語の語彙ネットワークに関する研究」。
- 4) 武藤彩加 (2001) 「味覚形容詞『甘い』と『辛い』の多義構造」。
- 5) 小出慶一 (2003) 「味覚形容詞一体系とその意味拡張」。
- 6) 崔明愛・馬場俊臣 (2010) 「日本語と中国語の味覚表現の比較」。
- 7) 王静 (2011) 「汉日基本味覚形容詞的隐喻现象对比研究」。
- 8) 初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』P100-117。
- 9) 「甘い」の用例は、『新潮文庫の100冊 (CD-ROM版)』、『新潮文庫の絶版100冊 (CD-ROM版)』及び<http://www.yahoo.co.jp>より抽出。「甜」の用例は、中国「教育部語言文字应用研究所語料庫 (<http://124.207.106.21:8080/QRslt.srf>)」、北京大学中国語言学研究中心語料庫CCL ([http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)) 及び<http://www.yahoo.com.cn>より抽出。  
日本語用例は「J」、中国語用例は「C」と標識を加える。
- 10) 表の中：当該用法の有無を「○」有、「×」無しとし、心地の表現として「+」好ましい、「-」好ましくない、「△」中立の意を表す。

#### 参考文献

- 1) 松田文子, 白石知代 (2006) コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研究. 世界の日本語教育16. 35-51.
- 2) 田中茂範 (1989) 動詞がわかれば英語がわかる. ジャパンタイムズ.
- 3) 田中茂範 (1990) 認知意味論: 英語動詞の多義の構造. 三友社.
- 4) 田中茂範, 松本曜 (1997) 空間と移動の表現. 研究社.
- 5) 田中茂範 (2004) 基本語の意味のとらえ方-基本動詞におけるコア理論の有効性. 日本語教育 121. 3-13.
- 6) 青谷法子 (2001) 多義語の語彙ネットワークに関する研究 (1). 東海学園大学紀要6. 149-159.
- 7) 武藤彩加 (2001) 味覚形容詞「甘い」と「辛い」の多義構造. 日本語教育110. 42-51.
- 8) 小出慶一 (2003) 味覚形容詞一体系とその意味拡張. 群馬県立女子大学国文学研究23. 1-17.
- 9) 崔明愛, 馬場俊臣 (2010) 日本語と中国語の味覚表現の比較. 北海道教育大学紀要. 人文科学・社会科学編60 (2). 65-78.
- 10) 王静 (2011) 汉日基本味覚形容詞的隐喻现象对比研究. 日语学习与研究. 49-56.
- 11) 初山洋介 (2002) 認知意味論のしくみ. 研究社.
- 12) 岡智之 (2007) 日本語教育への認知言語学の応用. 東京学芸大学紀要. 総合教育科学系58. 467-481.

#### Analysis of Modern Japanese Polysemous Words Using Core Meaning Theory: Example provided by the Adjective "sweet"

Mao Yong, Cao Jieping

**Abstract:** One of the hurdles in learning Japanese is how to properly understand its abundant polysemous words. Therefore it is important for Japanese-learners to share core meanings of the words as Japanese-natives. In this paper, we focus in analyzing the Japanese polysemous adjective

“*Amai*” and its Chinese equivalent of “*Tian*” by using Core Meaning Theory. We found that the “*Amai*” has broader categories of meaning than the “*tian*” and reveal the difference that the core meaning of “*Amai*” includes both positive and negative evaluation of external world, whereas “*tian*” lacks negative evaluation.

**Keywords** : Core Meaning Theory, underside semantics, level semantics, core semantics